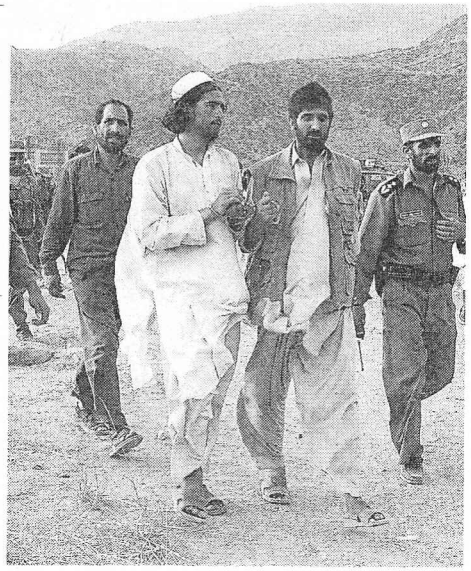
強盗もタリバーン自称

NGO邦人 遺体発見

アフガニスタンで27日に遺体で見つかったNGO「ペシャワール会」の伊藤和也さん(31)は、地元住民の信頼を得て援助活動に奔走していた。それがなぜ、標的にされたのか。反政府武装勢力タリバーンを名乗るグループが犯行を示唆したが、事件の背景には謎が多い。ただ、治安の急速な悪化だけは確かで、日本の民生支援のあり方は見直しを迫られそうだ。

＝1面参照

「丸腰の安全策」限界



アフガニスタン東部ブディアライ村で26日、伊藤さん拉致にかかわったとして警察に連行される男（中央左の白い服）＝AP

「ペシャワール会」は狙われたのか。福元満治事務局長は27日、「我々の活動を知っていればありえない。タリバーンなど政治的な意図があるグループとも考えにくい」と否定した。

国際医療ボランティア「AMDAグループ」の菅波茂代表は「アフガンの人は恩をあだで返すことはない。金目的か、部族間の対立抗争に巻き込まれたのではないか」と推測する。

同会は一貫して、民兵などの特別な警備などをつけずに活動してきた。夜間は行動しないなど基本的な注意は慎重に守るが、最大の安全策は地元住民からの信頼との考え方からだ。実際、これまで被害は受けてこなかったという。

だが、治安の悪化は予想以上に進んでいた。アフガン内務省は今月、すべての外国人に、地方へ行く際には地元警察に連絡を取るよう求めた。身辺警護をつけ、タリバーンなどからの攻撃を防ぐ狙いからだ。国際治安支援部隊（ISAF）が国連機関や民間団体と協力する「軍民複合」型の援助も、03年から始まっていた。

危険地帯でも「丸腰」で活動し続けたペシャワール会のやり方は、この対極にあったといえる。ただ、信頼重視の方法には落とし穴もある。アフガンでは政治目的のテロ攻撃とは別に、強盗なども急増している。援助と無関係な強盗犯からすれば、丸腰の外国人は格好の標

アフガンで
解除にあたっ
学大学院の伊
は、ペシャワ

民生支援 見直し機運

「身の安全が十二分に確保できないところに、どんどん人を出すのはなかなか難しい」

町村官房長官は27日の記者会見で、政府が拡大を検討してきた民生支援の限界を率直に認めた。

日本人らしき遺体発見の情報が伝わると、官邸内には、安全確保策を前提に危険地域でのNGO活動を黙認してきた姿勢を見直す空気が一気に広がった。

「十分に安全対策をとってきたと思われるので、それをはるかに上回るほど治安が悪くなっているのか、統制がきかない人が増えているのか。援助態勢のあり方が問われている」。アフガンで国連の政務官を務めたこともある日本エネルギー経済研究所の田中浩一郎・中東研究センター長はそう指摘する。

政府はここ数年、アフガンでの人的貢献を模索してきた。安倍首相（当時）がRTへの参加を表明。今年6月も政府調査団を衛隊派遣の可能公明党の反対も面見送られた。

「各国はPRが参加した国際る。危険だからいなくなれば、無法国家に戻っ府高官は、首相弁した。

司令官・旧政権関係者

「（アフガン）政府のために働く者は外国人であろうとアフガン人であろうと、また、ただの運転手であろうとみな敵だ」。アフガン東部でタリバーンを名乗る武装勢力を率いるハジ・ムニーブ司令官は朝日新聞の取材に、伊藤さんの拉致を自分たちの犯行と主張し、そう語った。

アフガン東部の武装勢力に詳しいパキスタンの専門家によると、このグループは伊藤さんが拉致されたナンガルハル州の北隣のクナル州などで活動し、米軍基地や政府施設への攻撃を繰り返しているという。犯人グループは同州へ

伊藤さんを連
いた可能性が
ムニーブ司
神学生を意味
ン」を名乗る
年まで極端な
に基づく宗教
の大半を支配
ン政権との関

どうすれば、
廃棄物という言葉を

時時刻刻

きょうがわかる